

令和2年9月10日

令和2年夏期における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課

1 概要

(1) 全国の発生状況

令和2年夏期(7～8月の2か月間をいう。以下同じ。)における山岳遭難は

○ 発生件数 470件 (前年対比 -136件)

○ 遭難者 541人 (前年対比 -128人)

うち死者・行方不明者

47人 (前年対比 -7人)

であった(数字は速報値)。

過去5年間の夏期における山岳遭難発生状況をみると、今年は発生件数、遭難者数とも最も少なくなった。

(2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、長野県が47件、次いで北海道、富山県が40件、東京都が24件であった。

2 特徴

(1) 目的別・態様別

遭難者541人について、目的別にみると、登山が415人(76.7%)と最も多く、次いで山菜・茸採り23人(4.3%)が多い。

態様別にみると、道迷いが163人(30.1%)と最も多く、次いで転倒が97人(17.9%)、滑落が73人(13.5%)となっている。

(2) 年齢層別

遭難者541人のうち、70歳代が106人(19.6%)と最も多く、60歳代が98人(18.1%)となっている。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入(表1～5においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。)

3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備、さらには、体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力等の準備不足が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

○ 的確な登山計画と万全な装備品の準備

気象条件、体力、技術、経験、体調等に見合った山を選択し、登山日程、携行する装備品、食料等に配慮し、安全な登山計画を立てる。

登山計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート(エスケープルート)等を事前に把握する。

また、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、雨具(レインウェア)、落

石や滑・転落時に頭部を守るためのヘルメット、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した場合に備え、助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）やツェルト（簡易テント）、非常食等を準備するなど、装備を万全に整える。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○ 登山計画書の提出

登山計画書は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであることを意識付け、作成した登山計画書は、一緒に登山する仲間と共有すると共に、家族や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

○ 道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習得し、登山には地図やコンパス等を携行して、常に自分の位置を確認・把握するよう心掛ける。

なお、GPS機器等位置情報を取得することができる機器を活用することで、より正確な位置を把握することができるため、道迷いの防止や、遭難発生時の迅速な場所特定につながる。

○ 滑落・転落防止

日頃から手入れされた登山靴やピッケル、アイゼン、ストック等の装備を登山の状況に応じて的確に使いこなすとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

また、滑落・転落する恐れがある場所を通過するときは、滑落・転落や上方からの落石に備え、必ずヘルメットを着用する。

○ 的確な状況判断

霧（ガス）や悪天候による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、滑落等の危険が高まることから、「道に迷ったかも。」と思ったら、闇雲に進むことなく、今歩いてきた道（トレース）を辿り、正規の登山道まで引き返すなど、状況を的確に判断するとともに、早めに登山を中止するよう努める。

○ 新型コロナウイルス感染防止

山域を管轄する自治体の移動制限等の情報、公共交通機関の運行状況や山小屋等の運営状況を確認する。

日頃から健康管理を行い、少しでも体調不良があれば、入山を控える。

行動中は、周囲の人となるべく距離をあけ、熱中症のリスクが高くなることから、行動中に息苦しさや暑さを感じる際は、マスクを外す。

表1 概要

(夏期)

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
						構成比
発生件数(件)	660	611	721	606	470	
遭難者数(人)	753	705	793	669	541	100.0%
死者・行方不明者	48	68	71	54	47	8.7%
死者	45	56	54	47	41	7.6%
行方不明者	3	12	17	7	6	1.1%
負傷者	357	330	359	330	227	42.0%
無事救出者	348	307	363	285	267	49.4%

注:夏期とは、7～8月の2か月間をいう(以下同じ)。

発生件数等の推移

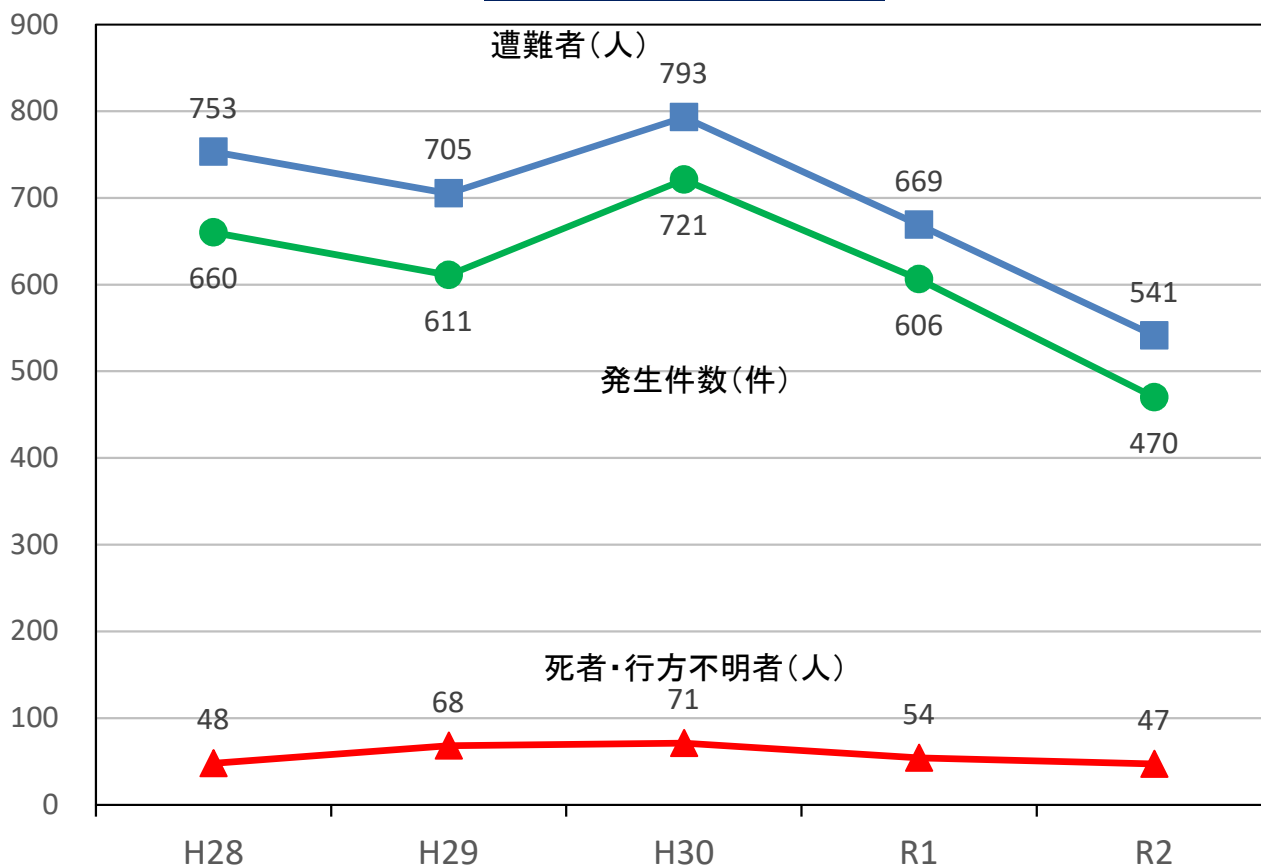


表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(令和2年夏期)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	40	55	4		13	38
青森県	13	13			6	7
岩手県	7	8	1		5	2
宮城県	7	7			3	4
秋田県	10	12	2	1	4	5
山形県	13	14	1	1	7	5
福島県	13	13	1		6	6
東京都	24	25	4		15	6
茨城県	7	7	1		4	2
栃木県	15	15	2		12	1
群馬県	21	26	2		15	9
埼玉県	9	11	2		2	7
千葉県	1	1			1	
神奈川県	20	27	1		8	18
新潟県	13	13	1		5	7
山梨県	20	22	2	1	7	12
長野県	47	52	4		26	22
静岡県	5	5	1		1	3
富山県	40	43	2		25	16
石川県	12	12			6	6
福井県	5	5			4	1
岐阜県	12	12	1		6	5
愛知県	9	9	1		1	7
三重県	7	11			4	7
滋賀県	16	16	2		11	3
京都府	3	5				5
大阪府						
兵庫県	16	22			10	12
奈良県	13	18	2	1	7	8
和歌山県						
鳥取県	2	2				2
島根県						
岡山県	2	2			1	1
広島県	2	2		1		1
山口県	1	2				2
徳島県	3	3			1	2
香川県	2	2		1		1
愛媛県	3	4	1		1	2
高知県	2	2	1			1
福岡県	7	7			2	5
佐賀県	3	4			1	3
長崎県	2	3				3
熊本県	3	4	1		3	
大分県	6	7			1	6
宮崎県	3	3			2	1
鹿児島県	8	8	1		1	6
沖縄県	3	7				7
合計	470	541	41	6	227	267

表3 目的別山岳遭難者

(夏期)

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	610	577	673	557	463	85.6%
登山	559	527	610	515	415	76.7%
ハイキング	21	26	31	8	20	3.7%
スキー登山				1	1	0.2%
沢登り	22	18	25	27	17	3.1%
岩登り	8	6	7	6	10	1.8%
山菜・茸採り	10	16	6	14	23	4.3%
その他	133	112	114	98	55	10.2%
観光	83	61	65	54	9	1.7%
作業	13	11	10	5	10	1.8%
溪流釣り	12	12	10	15	14	2.6%
写真撮影	1	1	6	3	4	0.7%
自然観賞	3	1	3	1	3	0.6%
山岳信仰	4	10	2	3	0	0.0%
狩猟		1			0	0.0%
スキー					0	0.0%
その他	17	13	15	14	13	2.4%
不明		2	3	3	2	0.4%
合計	753	705	793	669	541	100.0%

表4 態様別山岳遭難者

(夏期)

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	192	189	179	147	163	30.1%
滑 落	109	102	119	97	73	13.5%
転 倒	174	168	169	167	97	17.9%
病 気	118	100	120	87	71	13.1%
疲 労	71	56	93	84	54	10.0%
そ の 他	89	90	113	87	83	15.3%
転 落	24	18	25	17	20	3.7%
悪 天 候		3	15	1	4	0.7%
野生動物襲撃	7	6	2	5	14	2.6%
落 石	5	11	6	6	5	0.9%
雪 崩					0	0.0%
落 雷				2	0	0.0%
鉄 砲 水	1				0	0.0%
有 毒 ガ ス					0	0.0%
そ の 他	45	33	45	42	33	6.1%
不 明	7	19	20	14	7	1.3%
合 計	753	705	793	669	541	100.0%

態様別山岳遭難者構成比の推移

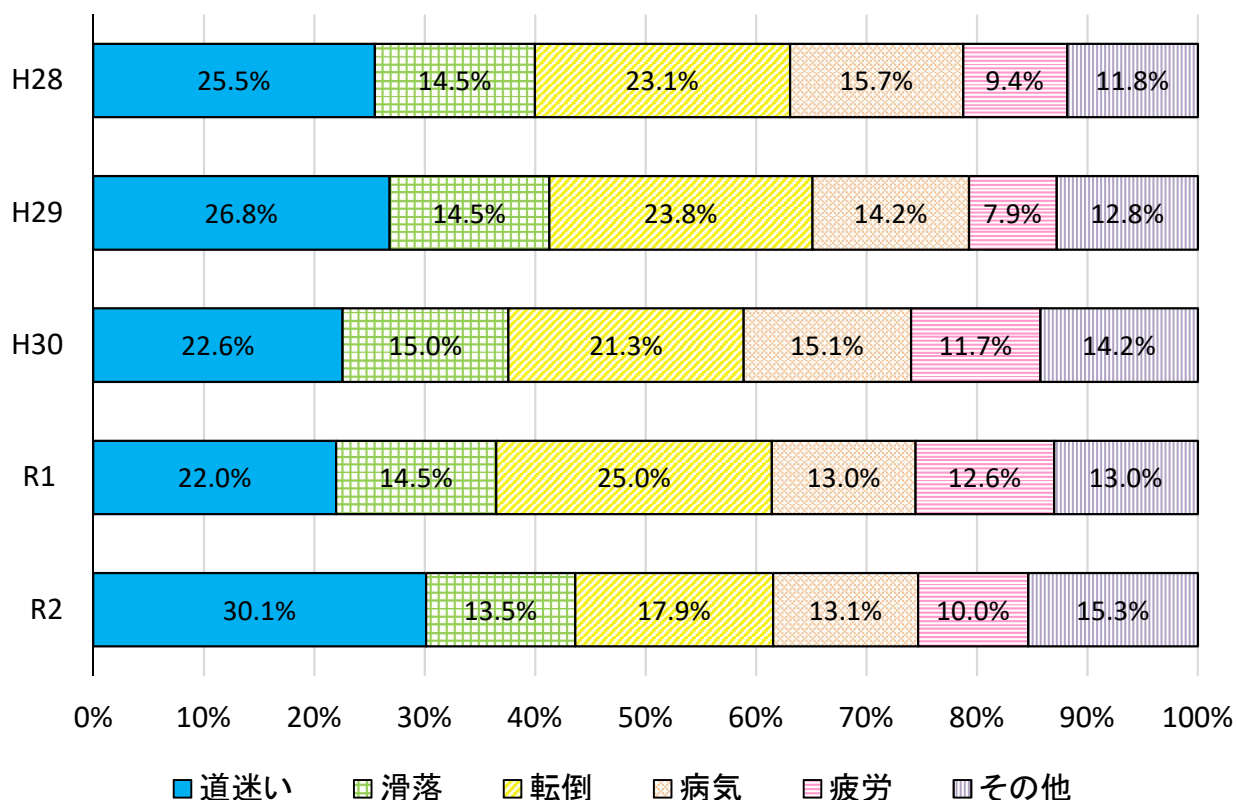


表5 年齢層別山岳遭難者

(夏期)

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	68	45	49	43	26	4.8%
20～29	55	53	47	39	56	10.4%
30～39	68	48	70	65	53	9.8%
40～49	99	77	108	95	83	15.3%
50～59	111	120	152	112	97	17.9%
60～69	197	196	184	162	98	18.1%
70～79	130	151	161	133	106	19.6%
80～89	24	14	21	20	18	3.3%
90歳以上	1	1	1		3	0.6%
不明					1	0.2%
合計	753	705	793	669	541	100.0%

年齢層別山岳遭難者構成比の推移

